

## 大きなうずまき雲 ～台風サイエンス①～



昨日は、台風1号の接近が心配されましたが、久米島への影響もなく、ほっとしたところです。

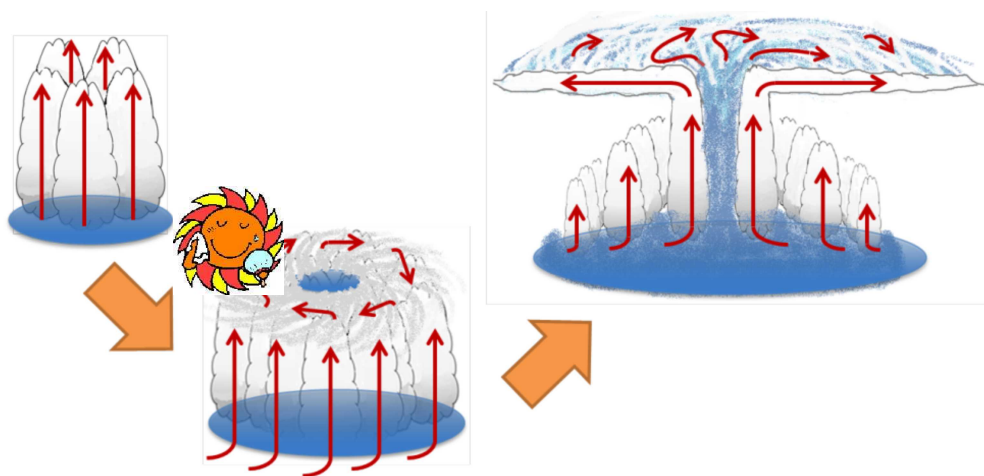
さて、台風はどんなメカニズムで発生するのでしょうか。

台風は、熱帯の海洋上で生まれた低気圧のうち、最大瞬間風速が17.2m/s以上になったものをいいます。熱帯地方では、強い日光で海面からたくさんの水蒸気が発生し、強い上昇気流となります（4年生の、「水は蒸発すること」「あたためられた空気は体積が大きくなること」などを学習と関係します）。

その上昇気流に、さらにまわりの水蒸気が流れ込み、地球の自転の影響でうずまき状になって台風成長します。日本の位置する北半球では反時計回りに、南半球では時計回りに風が吹き込むうずまきができるのです。

台風は、英語ではTyphoon（タイフーン）、インドの南側で発生したものはサイクロン、アメリカの南部やオーストラリアの東側で発生したものはハリケーンと呼ばれます。

台風が沖縄に接近するのは、6～10月が多いです。この時期は、発生して数日



台風の構造

で大きく発達し、急速に接近してくる台風が多いので、台風発生ニュースを聞いたら、テレビや新聞、インターネットなどの台風情報をこまめにチェックして下さいね。

(文責：玉村かおり)